

第 61 回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 材料分科会 議事録

1. 日 時: 2011 年 8 月 25 日(木)13 時 30 分～16 時 45 分
2. 場 所: 日本機械学会 第 2 会議室
3. 出席者: 木村(NIMS)、尾崎(東電)、田村(パブ日立)、俣野(KHI)、南(NKK シームレス鋼管)、伊藤(IHI)、北村(関電)、戸田(NIMS)
欠席者: 清水(MHI)
代理者: なし
オブザーバ: 竹田(中電)
事務局: 海野(記)

4. 配付資料

- 61-1 . 第 60 回材料分科会議事録(案)
- 61-2 . 材料分科会委員名簿
- 61-3 . 第 56 回火力専門委員会議事録
- 61-4 . 第 11 回材料専門委員会議事録
- 61-5 . 第 57 回規格委員会議事録
- 61-6 . 火力専門委員会書面投票再投票結果(基本規定・詳細規定)
- 61-7 . 規格委員会書面投票再投票結果(基本規定・詳細規定)
- 61-8 . 規格委員会書面投票2次投票結果(事例規格)
- 61-9-1. 規格委員会書面投票再投票(基本規程)意見
- 61-9-2. 規格委員会書面投票再投票(詳細規程:材料分科会関連)意見
- 61-9-3. 規格委員会書面投票2次投票(事例規格)意見

5. 議 事

(1) 前回議事録確認

[資料 61-1]

前回議事録(案)について確認を行なった結果、特に指摘事項はなく議事録案は承認された。

(2) 分科会委員の承認

[資料 61-2]

南川委員の退任の意向と竹田氏の推薦が報告され、挙手による採決を行った結果、出席委員全員の賛成が得られ、次回火力専門委員会に竹田氏を新任委員に推薦することが承認された。

(3) 火力専門委員会・規格委員会他報告

(3-1) 火力専門委員会・材料専門委員会・規格委員会報告

[資料 61-3～5]

第 56 回火力専門委員会、第 11 回材料専門委員会、第 57 回規格委員会の審議内容のうち、火力に関連する内容が報告された。特記事項は以下の通り。

- ・ 基本規定案及び詳細規定案各分科会関連については、技術的変更を伴う修正有りとして再投票とし、火力専門委員会から投票を行うこととなった。事例規格に関しては技術的変更を伴う修正が無く、編集上の修正のみであることから 2 次投票に進み規格委員会にて投票を行うこととなった。なお、2次投票の結果、投票成立条件及び可決上必要

な賛成票数が得られれば反対票があっても可決となること、及び承認後3ヶ月以内にパブコメ募集に進むよう規格委員会運営規約に定義されているが、基本規定案の投票可決が遅れた場合であっても、投票可決とは別に規格委員会にて規格が承認されるため、その時点で歩調が合わせられる旨、説明された。

- ASME からの SI 値取り込みについて原子力側の考え方と合わせるように規格委員会委員より指摘されていた件について、火力専門委員会にて意見集約を行った。考えられるケースとしては、①ASME の SI 値を採用②ASME の値を換算して採用③一部のみ換算値を採用、があるが、意見としては③はメンテナンス等の点から困難であるというものが大勢であった。本件については規格委員会にて決定したルールに従うこととなった。なお、規格委員会では、今後原子力側との調整をすることとし、今回は全て ASME の SI 値を採用せず、換算値とすることとなった。

(3-2)火力専門委員会書面投票(再投票)結果報告

[資料 61-6]

基本規定案及び詳細規定案各分科会関連の火力専門委員会書面投票再投票結果について報告した。

<投票対象>

- No.53 基本規定案
- No.54 詳細規定案材料分科会関連
- No.55 詳細規定案構造分科会関連
- No.56 詳細規定案溶接分科会関連

<各書面投票共通>

投票期間:7月19日(火)～8月2日(火)

投票結果:可決(委員数5分の4以上の投票数により投票成立、投票数3分の2以上の賛成票数、意見付反対票無しにより可決)

投票内訳:委員数 21 名

賛成 21 票

反対 0 票

保留 0 票

投票意見:反対・保留・参考意見とも無し

(3-3)規格委員会書面投票(再投票)結果報告

[資料 61-7]

火力専門委員会における書面投票再投票可決を受け、発電用設備規格委員会での書面投票再投票を実施し、その結果を報告した。

<各書面投票共通>

投票期間:8月3日(水)～8月17日(水)

- No.166 基本規定案

投票結果:委員数の5分の4以上の投票により投票成立し、投票数の3分の2以上の賛成票があったが意見付反対票があるため、提案者にて意見対応を実施する

投票内訳:委員数 31 名

賛成 25 票

反対 1 票

保留 0 票

投票意見:反対・保留意見有り(分科会資料に添付)

- No.167 詳細規定案材料分科会関連

投票結果:可決(委員数5分の4以上の投票数により投票成立, 投票数3分の2以上の賛成票数, 意見付反対票無しにより可決)

投票内訳:委員数 31 名

賛成 25 票

反対 0 票

保留 1 票

投票意見:保留・参考意見有り(分科会資料に添付)

- No.168 詳細規定案構造分科会関連

投票結果:委員数の5分の4以上の投票により投票成立し, 投票数の3分の2以上の賛成票があつたが意見付反対票があるため, 提案者にて意見対応を実施する

投票内訳:委員数 31 名

賛成 24 票

反対 1 票

保留 1 票

投票意見:反対・保留・参考意見有り(分科会資料に添付)

- No.169 詳細規定案溶接分科会関連

投票結果:委員数の5分の4以上の投票により投票成立し, 投票数の3分の2以上の賛成票があつたが意見付反対票があるため, 提案者にて意見対応を実施する

投票内訳:委員数 31 名

賛成 25 票

反対 1 票

保留 0 票

投票意見:反対・保留・参考意見有り(分科会資料に添付)

(3-4) 規格委員会書面投票(2次投票)結果報告

[資料 61-8]

発電用設備規格委員会での書面投票2次投票を実施し, その結果を報告した。

投票期間:8月3日(水)~8月17日(水)

- No.165 基本規定 事例規格案(高クロム鋼関連)

投票結果:委員数の5分の4以上の投票により投票成立し, 意見付反対票があつたが, 投票数の3分の2以上の賛成票があり, 規格委員会運営規約に則り, 可決した

投票内訳:委員数 31 名

賛成 28 票

反対 1 票

保留 0 票

投票意見:反対意見有り(分科会資料に添付)

(4) 審議事項

(4-1) 発電用設備規格委員会書面投票意見対応案について [資料 61-9-1~3]

発電用火力設備規格の規格委員会書面投票(再投票・2次投票)の意見への対応案について審議を行った。

a. 発電用火力設備規格 基本規定 事例規格

事例規格(高クロム鋼の寿命評価式関連)の意見対応案について審議を行った。特記事項は以下の通り。

○吉田委員反対意見

(a):「表1. 寿命評価式に用いる定数」に備考欄を設け、各鋼種の係数が何に基づくのかを明確にする。

(b):説明性が低いという指摘に対応して「～小さい値になるが、それら小さい方の値を適用する必要はない。」を「～小さい値になるが、各領域の寿命評価式の係数設定方法から短時間領域の係数を用いた長時間領域の寿命はデータ外挿範囲であり信頼性が低くなるため、それら小さい方の値を適用する必要はない。」に修正する。

(c):評価温度、応力を適切に設定することで全継手に適用可能であることから、規格原稿は原案通りとする。

b. 発電用火力設備規格 基本規定(案)の意見対応案

各分科会共通の基本規定のうち、材料分科会が関与する部分について意見対応案の審議を行った。特記事項は以下の通り。

○吉田委員反対意見

(d):2008年版策定時にJESCにて指摘され、修整後正式に承認されていることから、規格原稿は原案通りとする。

c. 発電用火力設備規格 詳細規定(案)材料分科会関連の意見対応案

詳細規格(案)材料分科会関連の意見対応案について審議を行った。特記事項は以下の通り。

○吉田委員保留意見

(a):「ASME Code Case (2008Addenda)」を「ASME Code Case 2007Edition (Supplement 6 までを含む)」に修正する。また、「Code Case 2199-4」を「Code Case 2199-3」に修正し、「Code Case 2319」を削除する。

(b):基本規定案の同様記載部分を修正することについて吉田委員の了解を得ており、それと合わせて詳細規定案を修正したものであるため、修正原稿案の通りとする。

(c):ASME 規格の Metric 版に記載されている SI 値を取り入れることの妥当性については2008年版規格策定時に承認されており、第56回火力専門委員会(2011年5月17日開催)においても再確認し承認されているため、規格原稿は原案通りとする。

(d)~(f):指摘の通り、引用JISの年版指定を行う。基本方針は以下の通り。

- 1) 火技解釈(H19年版)とJIS B 8267(2008)で年版が同じものは、その年版とする。
- 2) 火技解釈(H19年版)とJIS B 8267(2008)で年版が異なる場合、技術評価を行い、引用JIS規格の年版を設定する。

3) 火技解釈(H19 年版)の引用 JIS 規格に年版が指定されていない場合, 最新版を引用することを前提にして技術評価を行い, 引用 JIS 規格の年版を設定する。

(g):他の規格を参照・引用することは問題無いため,規格原稿は原案通りとする。ただし,ユーザーの利便性を考慮して他の規格をJSME規格に取り込むことについて少しずつ進めてきており, 本件も今後の改訂時に対応を検討とする。

(h):(g)と同様。

(i):補遺に明記されており, 規格原稿は原案通りとする。

(j):(g)と同様。

(k):(g)と同様。

○吉田委員参考意見

(a):今回の改訂範囲でないことから, 規格原稿は原案通りとする。ただし, 引張強さに係数 1.1 を用いることについては, 技術的な背景及び根拠を材料専門委員会にて検討中であり, その検討結果を今後の改訂時に反映する予定。

6. 次回開催予定

日 時:2011 年 10 月 31 日(月)13:30~17:00

場 所:日本機械学会 第2 会議室

以 上